

# 最近の国際金融情勢について

2016.3.14

# IMF「世界経済見通し」(2016年1月)

	実質GDP成長率(%)				失業率 (%)	経常収支 (対GDP 比、%)	一般政府財政 収支(対GDP 比、%)	一般政府債務 残高(対GDP 比、%)			
	2014	2015	2016						2017		
			(OCT)	(JUL)	(OCT)						
世界	3.4	3.1	3.4←	3.6←	3.8	3.6 ←	3.8	n/a	n/a	n/a	n/a
先進国	1.8	1.9	2.1←	2.2←	2.4	2.1 ←	2.2	6.8	0.5	-3.1	104.5
日本	0.0	0.6	1.0←	1.0←	1.2	0.3 ←	0.4	3.5	3.0	-5.9	245.9
米国	2.4	2.5	2.6←	2.8←	3.0	2.6 ←	2.8	5.3	-2.6	-3.8	104.9
ユーロ圏	0.9	1.5	1.7←	1.6←	1.7	1.7 ←	1.7	11.0	3.2	-2.0	93.7
ドイツ	1.6	1.5	1.7←	1.6		1.7 ←	1.5	4.7	8.5	0.5	70.7
フランス	0.2	1.1	1.3←	1.5		1.5 ←	1.6	10.2	-0.2	-3.8	97.1
イタリア	-0.4	0.8	1.3←	1.3		1.2 ←	1.2	12.2	2.0	-2.7	133.1
英国	2.9	2.2	2.2←	2.2		2.2 ←	2.2	5.6	-4.7	-4.2	88.9
カナダ	2.5	1.2	1.7←	1.7		2.1 ←	2.4	6.8	-2.9	-1.7	90.4
新興国・途上国	4.6	4.0	4.3←	4.5←	4.7	4.7 ←	4.9	n/a	-0.1	-4.3	44.4
ASEAN-5	4.6	4.7	4.8 ←	4.9		5.1 ←	5.3	n/a	1.3	-2.4	38.7
中国	7.3	6.9	6.3 ←	6.3 ←	6.3	6.0 ←	6.0	4.1	3.1	-1.9	43.2
インド	7.3	7.3	7.5 ←	7.5		7.5 ←	7.5	n/a	-1.4	-7.2	65.3
ブラジル	0.1	-3.8	-3.5 ←	-1.0		0.0 ←	2.3	6.6	-4.0	-7.7	69.9
ロシア	0.6	-3.7	-1.0 ←	0.3		1.0 ←	1.0	6.0	5.0	-5.7	20.4
サウジアラビア	3.6	3.4	1.2←	2.2		1.9 ←	2.9	n/a	n/a	n/a	n/a
南アフリカ	1.5	1.3	0.7←	1.3		1.8 ←	2.1	n/a	n/a	n/a	n/a

## 金属資源の世界生産量

1995年 → 2014年

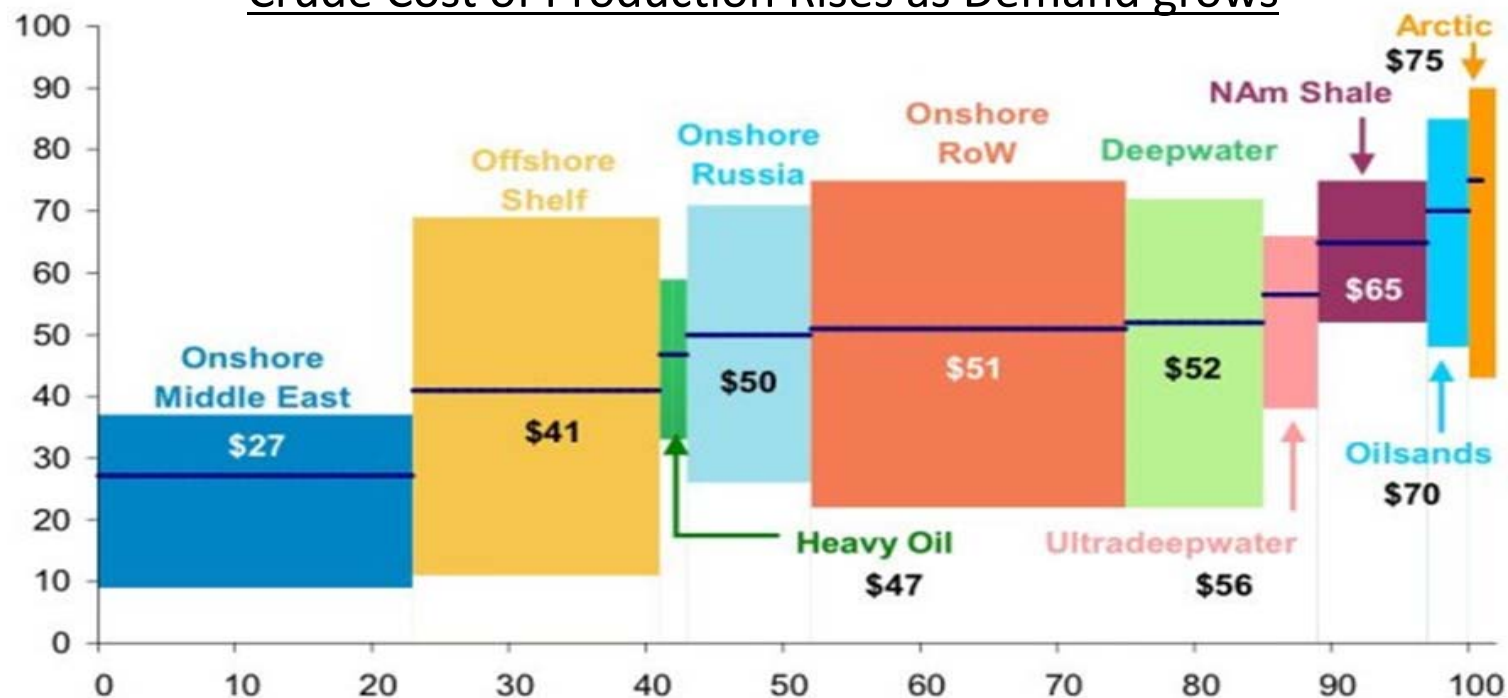
鉄鉱石	3.4倍
アルミニウム	2.5倍
銅	1.8倍
ニッケル	1.9倍

## オイル生産量上位10カ国

	(千bbl/日)	2008年	2015年	構成比(%)	増減率(%)
1	米国	8,564	14,934	15.7%	74.4%
2	サウジアラビア	11,429	11,713	12.3%	2.5%
3	ロシア	9,875	10,892	11.5%	10.3%
4	カナダ	3,344	4,695	4.9%	40.4%
5	中国	4,037	4,624	4.9%	14.5%
6	イラク	2,385	3,662	3.9%	53.6%
7	UAE	3,047	3,471	3.7%	13.9%
8	イラン	4,178	3,458	3.6%	-17.2%
9	クウェート	2,728	2,787	2.9%	2.2%
10	ブラジル	2,431	2,786	2.9%	14.6%
	米大陸	22,601	30,518	32.2%	35.0%
	OPEC	36,434	36,824	38.8%	1.1%
	世界	86,534	94,844	100.0%	9.6%

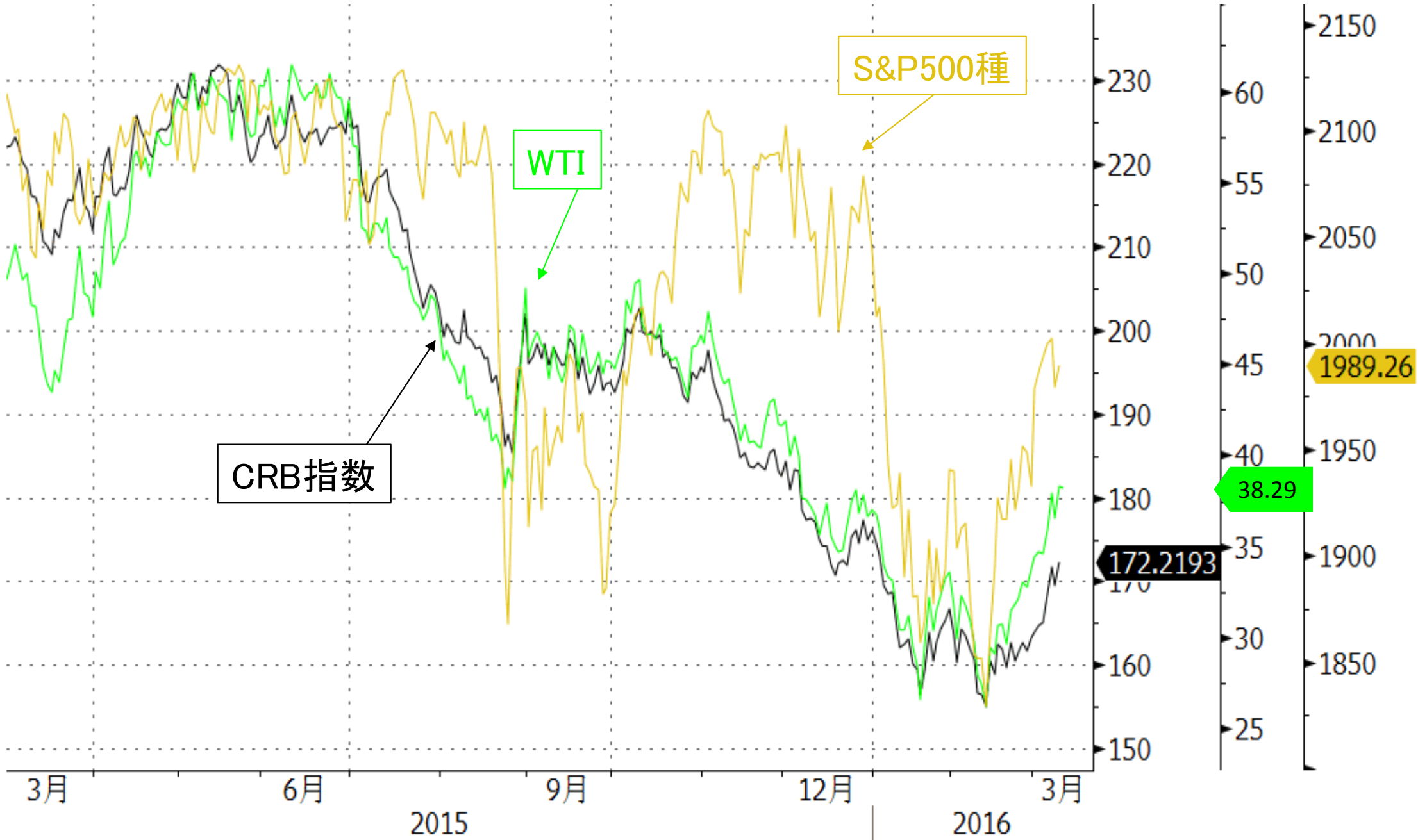
注:2015年は1-4月平均。出所:EIA、シティグループ証券

## Crude Cost of Production Rises as Demand grows



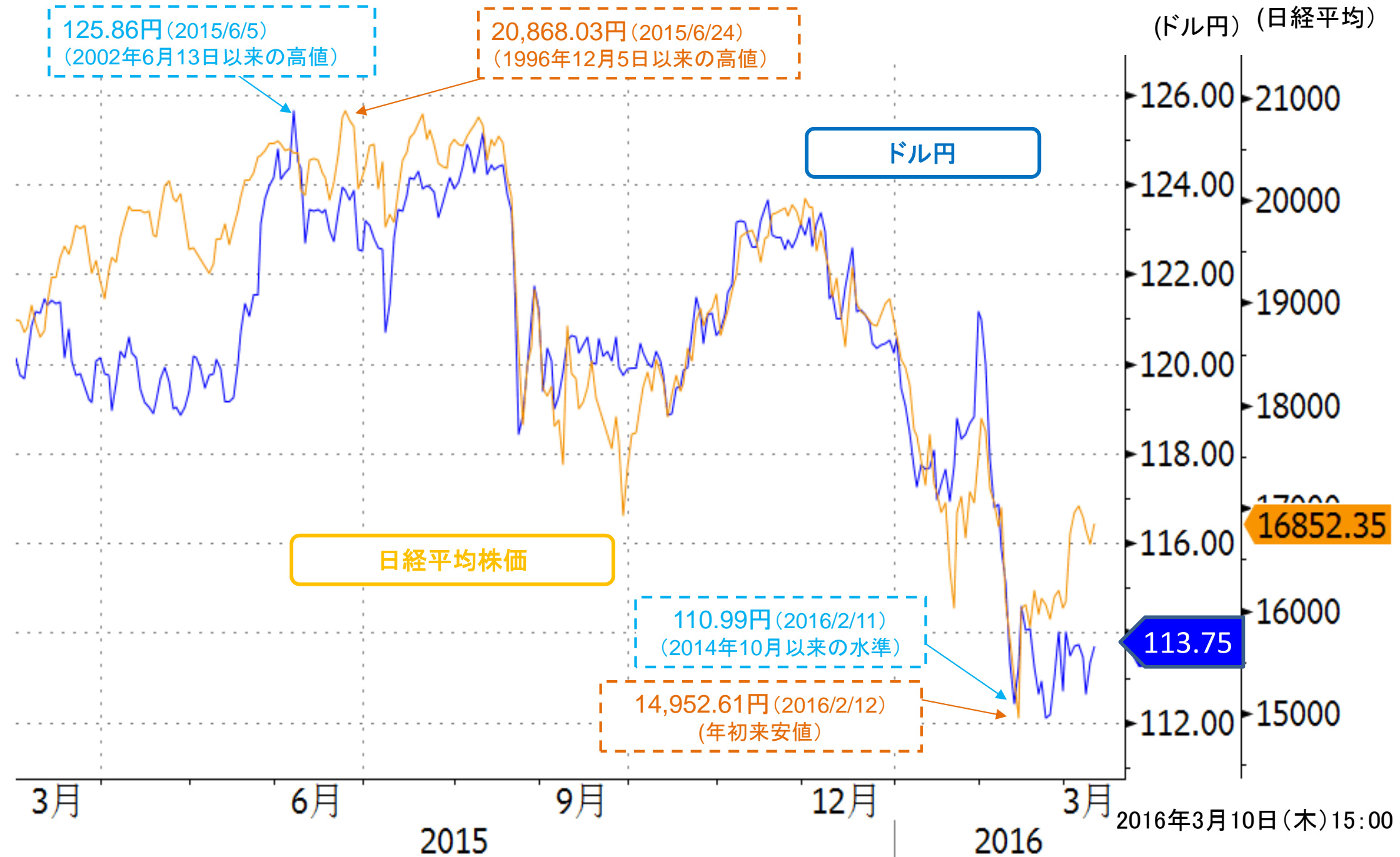
Source: Rystad Energy, Morgan Stanley Commodity Research estimates

# CRB指数、S&P500種、WTIの動き(2015年3月～)



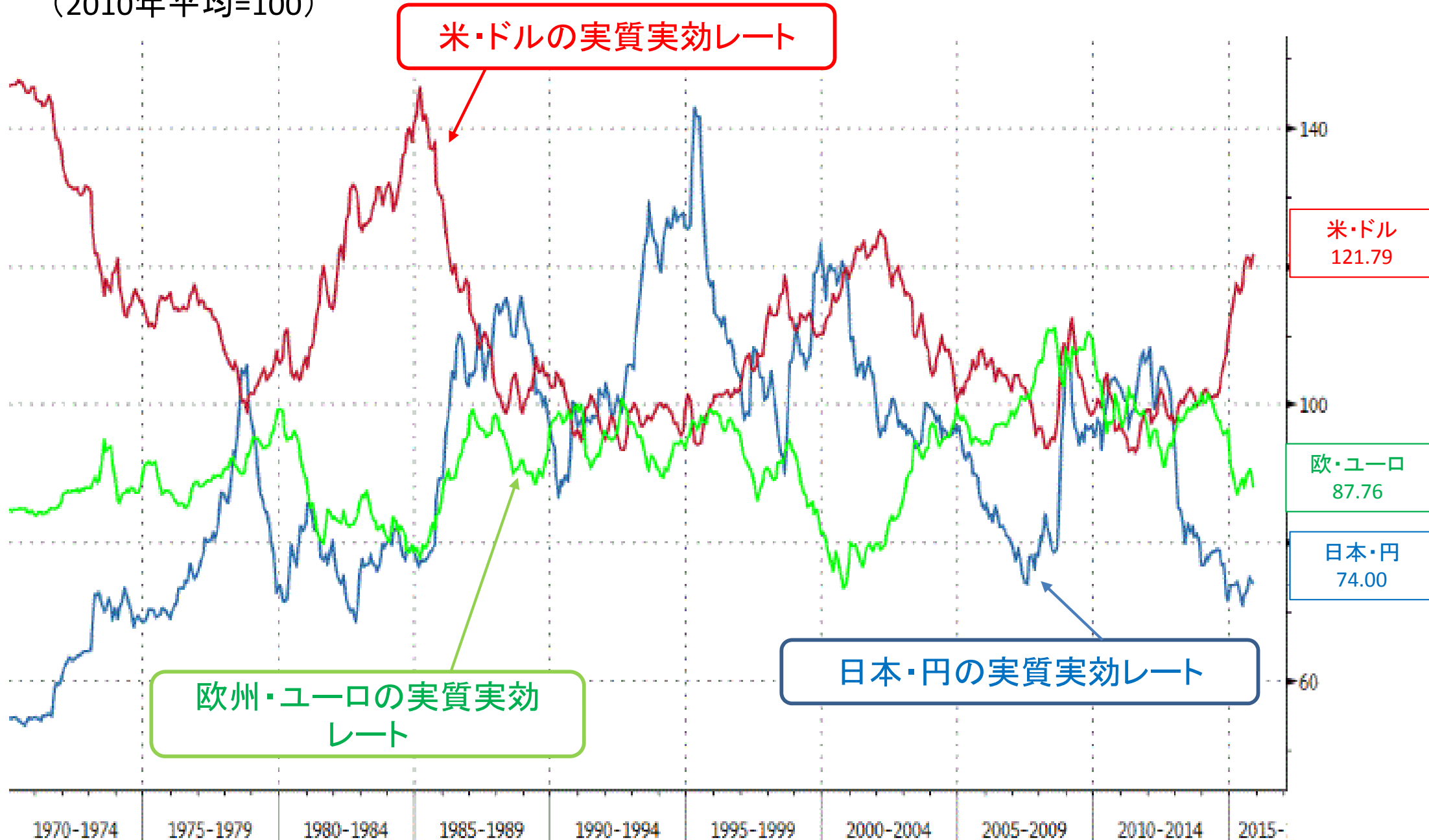
(出所: Bloomberg)

# ドル円相場と日経平均株価の推移(2015年3月～)



# 円・ドル・ユーロの實質実効レート推移(1970～)

(2010年平均=100)



## 1. 世界経済

- ①世界経済の回復は続くも、依然としてばらつき。最近の市場の変動の規模は、世界経済の現在のファンダメンタルズを反映したものではない。世界経済の成長という共通の目的を実現するため、更なる行動が必要であることに合意。
- ②金融、財政、構造政策の全ての政策手段を、個別にまた総合的に用いる。金融政策のみでは、均衡ある成長に繋がらないだろう。我々は機動的に財政政策を実施する。
- ③(a)為替レートの変動や無秩序な動きは経済及び金融の安定に対して悪影響を与え得ることを再確認。  
(b)我々は、為替市場に関して緊密に協議する。  
(c)通貨の競争的な切り下げの回避や競争力のために為替レートを目標とはしないことを再確認。
- ④政策に関する不確実性を軽減し、負の波及効果を最小化し、透明性を向上させるために、マクロ経済及び構造問題に関する我々の政策行動を注意深く測定し、明確にコミュニケーションを行う。

## 2. 成長引き上げのための枠組み

- ・構造改革に取り組むため、「優先課題と原則」を策定し、国ごとの多様性を考慮した上で構造改革の進捗及び構造的課題への取り組みを評価するため、インディケーターシステムを作成。

## 3. 投資とインフラ

- ・質と量の両面からインフラに焦点を当て、投資アジェンダを前進。国際開発金融機関が質の高いプロジェクトに関する量的目標を作成することを奨励。

## 4. 国際金融アーキテクチャ

- ・巨額で変動しやすい資本フローを監視し、これに対処するための政策手段及び枠組みの現状評価・適切な検証を行う。

## 5. 金融セクター改革

- ・銀行セクターにおける資本賦課の全体水準を更に大きく引き上げないことを明確化。規制改革の実施及び影響を監視し、評価。

## 6. 国際租税

- ・OECDより提案されたBEPSプロジェクトのグローバルな実施のための包摂的枠組みを支持。

# ギリシャ危機

## ◆2001年のユーロ参加以降、**財政赤字・債務残高が拡大**

実質経済成長率	4.0% (00年)	▲4.4% (09年)
海外国債保有比率	33.7% (00年)	71.7% (09年)
国債金利	6%台 (00年)	5%台 (09年)
経常収支(対GDP比)	▲7.5% (00年)	▲10.9% (09年)
財政収支(対GDP比)	▲3.6% (00年)	▲15.2% (09年)
債務残高(対GDP比)	99.5% (00年)	126.2% (09年)

## ◆財政統計の不正が発覚(2009年10月)し、**市場の信認が低下**

- 財政赤字の実績・見通しを下方修正。

## ◆ギリシャ国債の**格付け引下げ**、**国債金利の上昇**

- 2009年10月には4%台まで下がっていた国債金利は、相次ぐ格下げを受けて、8%台後半に急上昇。

ギリシャ政府、**市場からの資金調達**が**困難化**・**支援要請**(2010年4月)

## ◆第1次 ギリシャ支援(2010年5月)

・総額1,100億ユーロ (ユーロ圏各国:800億ユーロ、IMF:300億ユーロ)

2011年、**ギリシャ大手4行**、**経営危機**に陥り、**政府の支援**が必要に

- 国債金利は、2011年末には34%後半に更に急上昇し、金融機関の損失が拡大。

◆第2次 ギリシャ支援(2012年3月) - 国債金利は、2012年3月2日には、37.10%に。

### 2015年の動き

- 1月25日 ギリシャ総選挙の結果、緊縮財政路線の転換を主張する急進左派連合(SYRIZA)が第1党となり、政権交代が実現。
- 6月 EU・IMFとの交渉決裂。
- 7月5日 国民投票(緊縮案に賛成39%、反対61%)
- 8月14日 第3次ギリシャ支援プログラム(最大860億ユーロ、支援は3回に分けて実施)について合意。



チプラス首相とヴァルファキス前財務大臣



麻生大臣とショイブレ独財務大臣



